

○ 令和4年8月4日大雨災害について  
○ 子供のワクチン接種について

その他の質問

- ・業務改善助成金の活用について
- ・道の駅 恐竜溪谷かつやまの駐車場について
- ・サニタリーボックス(汚物入れ)の設置について



安岡孝一 議員  
新風会・公明

**議** 8月4日に発生した大雨災害で荒土町伊波地区、皿川の氾濫箇所等の堤防のかさ上げ工事や川底の掘削工事が必要ではないか。また、あまごの宿付近、野津又川の護岸崩壊の復旧工事の対応、ボラソンの復旧工事の対応、酷暑の仮設トイレの設置、酷暑の中での作業のため、飲み物を冷やす簡易な冷蔵庫が必要ではないか。

**理** 杉本知事が、福井県が管理する一級河川皿川の護岸決壊箇所や伊波区の浸水状況を確認され、その後、奥越土木事務所から護岸崩壊箇所の復旧工事だけでなく堤防のかさ上げや浚渫(しゅんせつ) (川底の掘削工事)を合わせて実施すると聞いている。

野津又川は、土木事務所の管轄範囲と勝山市の管轄範囲があり、大きな被害があった横倉区にあまごの宿付近の護岸は、勝山市が災害復旧事業として申請している。災害査定で認められ次第、復旧工事に着手する。

仮設トイレについては、災害発生3日後からの設置となり、今後は災害発生直後から対応したい。

バッテリーを電源とするクローラーボックスをボラソンのため被災現場で使用した。今回は、被災箇所が限定されていて10台で不足はなかったが、今後の大規模災害への備えとして買い増しを検討する。

**議** 日本小児科学会は8月10日、新型コロナウイルスワクチンの5〜17歳への接種について、従来の「意義がある」との見解を「推奨する」に強めた。また、厚生労働省はワクチン接種の努力義務について、これまで対象外だった5〜11歳にも9月6日、適用が決まった。

新学期に入り、子どもの感染機会が増えることが予想される。子どものワクチン接種はあくまでも本人と保護者が納得した上で判断するものなので、保護者へのより丁寧な情報の周知に努めてほしい。

**理** 今後の子どもへのワクチン接種に向けて、勝山市医師会の協力のもと準備を進めている。

市の広報紙やホームページ、チラシ等でワクチンに関する情報を分かりやすく掲載していく。

○ 食材高騰による小中学校の給食費について  
○ すくすく育成奨励金の見直しについて

その他の質問

- ・物価高騰による福祉施設への支援について
- ・8月4日の水害被害の検証について
- ・男性用トイレにサニタリーボックスを設置することについて



下道恵子 議員  
市政会

**議** 小中学校の給食において、近頃の食材の値上げは大きい影響があると思うが、保護者に負担をかけないために、どのようにやっているのが現状を伺う。

また、3中学校を再編して新中学校にした場合、給食費の無償化ができないのか市の考えを伺う。

**理** 小・中学校を問わず、栄養など給食の質が悪くならないように献立等を工夫し、給食費の値上げがないよう努力している。しかし、現場の努力ではどうにもならない場合、値上げをお願いせざるを得ないことも考えられる。

原油価格・物価高騰等に直面する生活者支援の一環として、6月補正で認められ、18歳以下の子ども全員に6万円を給付した「かつやまっ子元気応援臨時給付金」は、このような事態も想定したもので、もし給食費を増額せざるを得ない場合、保護者にはご理解いただきたい。

給食費については、小・中学校で差をつけることは考えていない。  
中学校再編後の給食費の無償化は、経済状況の推移や新

中学校の特色など様々な観点から小学校の給食費も併せて慎重に検討していく。

**議** 市の子育て支援に、第3子以降の乳幼児に一律20万円を一括交付する「すくすく育成奨励金」がある。

しかし、昨今の晩婚化により子どもは2人までとか、不妊治療で苦労して1人だけという家庭もある。また、年々出産費用が高くなっている現状も踏まえ、1人目から全員に10万円を支給する方がいいと思うが、市の考えを伺う。

**理** すくすく育成奨励金による人口減少の抑制効果は限定的となっているが、対象者へのアンケート等によると、その経済的な効果は評価をいただいている。

一方、勝山市育英資金奨学金制度を、貸与型から返済不要の給付型に切り替えることを検討している。

出生から成人までの子育て期間における支援のタイミングや金額、そのあり方について検討しており、すくすく育成奨励金の制度改正も、この奨学金制度の改正と併せて庁内全体で検討していく。